

◆ 2022 年度 活動 報告 シ ー ト ◆

団体名：埼玉県環境改善と地域活性化を推進する会

25A-18

代表者：代表理事 中村 憲雄

URL :

1. 活動が必要とされた状況

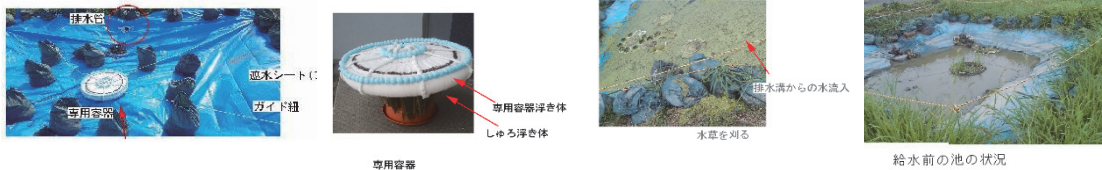
鴻巣市でコウノトリの飼育・放鳥の事業が始まりました。餌場となる自然な水辺が少なくなる一方、休耕水田が増加しています。休耕水田を持続可能で、多様な生き物が棲める水辺にするための知見を得ることを目的とします。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

〈実施時期〉 4月～2月

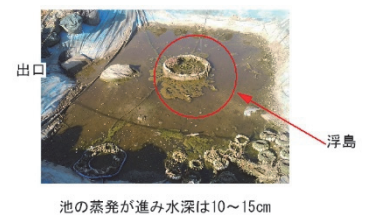
〈参加人数〉 9名（常時5名）「埼玉県内の環境改善と地域活性化を推進する会」メンバー

〈活動内容〉 休耕水田内にワンドを造成しました。ワンドに遮水シートを敷設し、浮力体を付けた浮島となる専用容器を設置しました。ワンドは遮水シート（1重；5.4m×5.4m）の大きさで、水深：約200mm、容量：約2.0m³です。実験当初5月のワンドの水は薄茶色に濁った状態で水草はなく、水温は24℃から始めました。6月に繁茂した水草を刈り取り、8月には水草はなくなりました。井戸ポンプが故障したため水位が3～5cm程度になってしまい、水温は27～30℃でしたが、ドジョウの稚魚、ヌマガエルが確認されました。動物プランクトンは目視できませんでした。



水質は池の水温28～30℃、池内の泥層の温度27℃、池内のD0:4～5ppm、泥層のD0:2～3ppmを確認し、栄養塩1.0kg(50mg/l程度の濃度分)を9月に投入しました。追加で10月に市販のN:23%、P0₄:4.1%、K:3.3%、石灰:18.4%、C/N:11.4の鶏ふん堆肥15kgを投入しました。投入量は過多と考えましたが、商品ラベルにC/N比は10程度との表示から易分解有機物が少ないと考えられたため、様子を見ることとしました。

池の水は11月初め、雨が少なく、水中の栄養塩の濃縮が進んだことから、濃い茶色になってしまいました。生き物は汽水域にはタニシ、浮島の下面にエビ、底にドジョウ等が確認されましたが、11月終わりには、生き物も観察されず、タニシも激減し、浮力材には藻類の付着物が多くなりました。



3. 活動の成果

休耕水田にワンドを構築し、栄養塩を供給し、生き物の棲息を観察しました。降雨が少ないと、ワンド内の水の入替えや増えすぎた藻類の除去等に対応することが必要です。

4. 今後に残された課題

栄養塩の供給目的で堆肥を投入する場合、易分解性有機物の少ない完熟した堆肥を投入することが今後の課題となります。